

2023 年度事業報告書

1. 事業活動方針

- (ア) 認定 NPO 法人の目標や活動内容を周知し、一般市民からの賛同を得るように努め
今後の寄付活動の準備を進めた。
- (イ) 小田原城天守を木造で復元するために必要な調査研究や関連事業を実施。
- (ウ) Web や SNS を通して広く木造復元の周知活動。

2. 事業内容

(ア) 小田原城天守木造復原に関する普及事業

① 小田原城天守調査研究プロジェクト（次次ページ参照）

- 1. 天守木造復原に必要な研究、人材育成、資金検討等の具体的な課題への解決案を提案していく為の研究活動。

② 第 1 回 夜の小田原城天守閣ツアー（2023 年 5 月 21 日）

- 1. 当会の小田原城調査研究室による小田原城天守閣展示資料の解説。
天守閣閉館後に各史資料の前で当会研究員が論文（※）の内容を踏まえながら新たに判明した知見などについて解説を行ない、当研究室がどのような視点で調査研究を行なっているのかを解説。

（※）

宮本 啓，高橋 政則，後藤 治.

小田原城天守の建地割図にみる制作目的と構造技法について

日本建築学会計画系論文集 / 88 巻（2023）806 号 p.1338-1394

宮本 啓，高橋 政則，後藤 治

小田原城天守「東大模型」の構造技法について

日本建築学会技術報告集 / 29 巻（2023）71 号 p.471-476

(イ) この法人の目的を達するために必要な事業

① 小田原城天守等復元的整備検討会議

小田原市（文化財課、小田原城総合管理事務所）、後藤治先生をはじめとする学識経験者、当会メンバーで構成された小田原城天守復元のための公的組織。
令和 6 年 3 月 29 日まで通算 10 回開催。

この会議の年度内と過去の議事録は小田原市のサイトで公開中

2023 年度第 1 回：2023 年 5 月 31 日開催

2023 年度第 2 回：2023 年 7 月 25 日開催

2023 年度第 3 回：2023 年 10 月 10 日開催

- ② 当会の Web サイトや SNS、紙面による「お城通信」等にて活動内容の周知や普及活動を行なった。

以上

小田原城天守調査研究室 事業報告

1. 研究内容

本研究室は2018年度に策定した研究概要に則り、随時調査・研究を継続している。2023年次(2023.6～2024.5)は、城絵図に描かれた天守の分析や文献調査を実施している。

(ア) 主な調査・研究

① 城絵図調査等

天守が描かれた城絵図の調査を継続しつつ、その形態意匠の変遷を分析している。また、天守模型が文化財指定される前後の文献などから修理履歴を調査している。

② 文献調査等

前年度に「東大模型」と江戸城「台所前三重櫓」との関連性が推定されたため、東京都立中央図書館および国立公文書館所蔵の関連史料データベースを調査、また『東京市史稿 皇城篇』などから建造から破却までの履歴等を調査中である。

(イ) 研究成果

(ア) についてこれまでの成果と今後の課題を示す。

① いわゆる「寛文図」などに描かれた寛永度天守は、初重が2層に分かれていたと思われ、「享保図」系の城絵図に描かれた元禄地震後の宝永度天守、つまり明治破却までの天守にその構成が影響を与えていたと推定される。今後は、文献史料と照らし合わせて、どのような経緯を辿ったのか検証が俟たれる。

② 江戸末期に描かれた「台所前三重櫓」の建地割図と「東大模型」とは直接の関連は見出せなかったが、「台所前三重櫓」は時代ごとに修理がなされているため、担当した譜代大名の関係史料を調査する必要があると思われる。

2. 今後の活動

(ア) 成果の発表

広く市民に向けての発信はできていないが、小田原城天守等復元的整備検討会議において適宜報告を行っており、市側との情報共有を図っている。今後は市民に向けて、これまでの成果を発信する場、媒体の充実が求められる。

(イ) 史資料調査

小田原市との協働の下、市が所蔵する文献や史資料（特に中央図書館所蔵・寄託分）を重点的に調査していく予定である。

以上